

## モニタリング項目 No.20 とりまとめ状況

## 1. 対象団体

エコツーリズム検討会議の構成員や提案事業に取り組む16団体を対象に、この資料の巻末に掲載した調査シートの内容について聞き取り調査を行った。13団体から回答を得られた。

No.	団体名	No.	団体名
1	環境省	9	知床小型観光船観光船協議会
2	林野庁	10	知床羅臼観光船協議会
3	斜里町役場	11	知床ウトロ海域環境保全協議会
4	羅臼町役場	12	斜里山岳会
5*	知床斜里町観光協会 知床五湖冬期利用促進事業検討部会	13	羅臼山岳会
6*	知床羅臼町観光協会 赤岩地区昆布ツアー一部会	14	石川先生
7	知床ガイド協議会	15	愛甲哲也先生
8	知床羅臼ガイド協議会	16	知床財団

\*調査対象が重複したため、1団体として聞き取りを行った。

## 2. 結果

## ①「知床エコツーリズム戦略」の基本方針について

【基本原則】	該当
遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上に貢献している。	11 団体
世界の観光客への知床らしい良質な自然体験を提供している。	7 団体
持続可能な地域社会と経済の構築に役立っている。	11 団体

【エコツーリズムを含む観光利用の推進にあたって必要な視点】	該当
事業、ツアーが、地域主体・自律的・持続可能である。	9 団体
事業、ツアーでは、共有・協働・連携などのネットワークが構築されている。	10 団体
自然環境の保全に配慮している。	11 団体
利用者の自然生態系に関する理解が促進されている。	10 団体
事業及びツアーが、地域の文化・歴史的背景を踏まえて実施されている。	10 団体
利用者へ自己責任の原則が認知され、管理責任の分担が行われている。	5 団体
事業、ツアーは知床のブランド価値を高めるという視点がある。	9 団体
事業、ツアーは順応的管理型で実施されている。	9 団体

【「該当」と回答しなかった者の意見】

- ガイド等の観光事業者でないため回答しづらい。
- 今年度は団体としての活動が無かった。

「知床エコツーリズム戦略」に則り、特に力を入れて取り組んでいることや、新たに始めた取組があるか

- 環境問題や生き物に配慮し、排気ガスの少ないエンジンで運航。
- 生き物が嫌がる方法で接近をしない。
- 知床で行われてきた自然と共存して人々が生きてきた歴史や文化を伝える。
- ヒグマ活動期小グループにおいて、団体利用の可能性の検討を始めた。これにより、団体利用の質的向上が期待される。
- 毎年行っている「知床ウトロウみどり WEEK」。
- 資金源である「知床ウトロ海のハンドブック」の改訂。
- シャトルバス車内でネイチャーガイドによる自然解説や国立公園の利用ルール等の解説を実施した。
- ネイチャーガイド付きのバス運行をとおして、知床を訪れた観光客に自然や地域の魅力を伝え、これまでの課題となっているヒグマとビジターとの軋轢緩和につなげた。
- 知床の中でも資源性が極めて高く魅力の凝縮された場所であるカムイワッカ湯の滝において、自然現象に由来するリスクが現認されている場所であることから、管理運営体制の構築等の検討事業を実施した。
- オータムバスデイズおよびカムイワッカ湯の滝の一の滝以奥の利用、知床半島ヒグマ管理計画にかかわる地元住民・観光客の意識調査について、地域の協議会等に協力して、利用者の意識調査、利用動態の調査の企画、実施、分析を協力・実施した。
- 知床自然センターからカムイワッカまでのマイカー規制を「Shiretoko Autumn Bus Days」として10月の3日間に試行的に実施。昨年の開始から2年目。
- 5月、8月、9月、10月にシャトルバスとアクセスに関するアンケート調査を協議会、北大と共同実施。1年間で1000を超えるサンプルを取得。また、知床自然センターの駐車台数、滞在時間調査を5月、8月、10月に実施。今後の制度設計や費用負担のあり方に関する基礎資料とする。
- 羅臼町と連携し、ルサフィールドハウスにおいて事前レクチャー実施と帰還時報告のセット特典を用意し、任意制度下ではあるが先端部利用者の事前レクチャー受講率アップに向けた取り組みを実施した。今年度は26件57名に受講者証を配布した。
- 登山道や羅臼湖の巡視を実施、収集した情報を知床情報玉手箱やHP、SNS等で発信、インフォメーションカウンターでも活用している。

- 2021年度は連山での救助案件が相次ぎ発生しており、登山口等への注意喚起看板を掲示した。情報発信方法に工夫が必要。
- コロナ禍により「知床五湖登録引率者」新規養成カリキュラムの実施が不可となったため、新規養成者の募集が休止の状態となっている。新規養成者の募集再開へ向け、喫緊の諸課題を整理した上で制度管理者・関係団体との協議調整を進めている。
- 15年ぶりにカムイワッカ湯の滝の1の滝以奥が条件付き開放となり、ガイド引率型（7月）と個人利用型（10月）の2つの試行事業に係る企画調整、現地管理等の業務を担った。
- 今年度のルサフィールドハウスを拠点とした各種イベントについては、7月に観音岩トレッキング、10月にシーカヤックの室内イベントやヒグマ対策キャンプなどを実施した。また、10月のイベントに合わせ2日間ルサカフェを開催した。
- 幌別・自然センターから映像やアクティビティ等を通じて発信する「Shiretoko Sustainable week」を実施。コロナ禍によりプログラム内容の一部を縮小した。
- 環境省による羅臼岳登山道修復事業（研修）に参加させていただき、当会会員の多くが「近自然工法」による整備に触れる機会をいただいた。また、その成果の一部は知床国立公園外ではあるが斜里岳三井コースの整備に生かすことができた。
- 知床国立公園内での登山道整備に関しては関係機関の役割整理や利用者（登山者）負担の在り方などを検討しないと事業の継続性（資金・労力・技術）としては限界がくるであろうことも実感した。
- 利用者や、知床に興味を持っていただいている方々に向けて、自然体感を通じて、知床世界自然遺産の希少性や価値を実感され、保護保全の意識高揚と知床の適正利用について今一度考えてもらう機会を提供し、「知床半島地区利用の心得【シレココ】」ルールが存在する意義の理解を深めていただくため、「ルサフィールドハウスから発信する「陸と海のシレココ・プロジェクト」」を実施し、可能な範囲で継続できるか検討中、利用のあり方に繋ぐ。

## ②エコツーリズムに関わる利用者・参加者の数や意識、行動の状況について

## 利用者・参加者の数

増加している	2 団体
減少している	4 団体
どちらともいえない	6 団体
未回答	1 団体

## 利用者・参加者の意識

変化している	6 団体
変化していない	1 団体
わからない	5 団体
未回答	1 団体

## 利用者・参加者の数や意識、行動について、気付いた点や気になる点はあるか

- ボランティア活動施設は緊急事態宣言時に閉鎖しており、利用者数は新型コロナの影響を受けて減少している可能性がある。
- コロナの影響でキャンセルが続出し、乗船者数は減少したが、予約数は年々増加している。
- 事前にアナウンスしている影響もあり、ゴミの持ち帰りなど、旅行者も自然に配慮した行動をする方が多い。
- ツアー内容を旅行会社にプロモーションするが、旅行会社のツアー造成時の傾向として、テーマがしっかりとあり、学習や学びの要素が柱としてある商品造成をする傾向があるので、取り組んできている事業と一致している。
- コロナ禍により、今までガイドツアーにあまり興味のなかった客層の参加が増えた印象。アウトドア活動に対する自己責任や自然環境を利用した観光という認識があいまいな参加者が多くなったように感じる。
- 岩尾別地区でのヒグマ撮影を目的とした交通渋滞は変わらず発生しており、ヒグマ撮影を目的としたカメラマンが例年止めていた駐車帯を昨年に引き続き閉鎖した。
- 依然としてコロナ禍にあり、県をまたいだ移動等が制限される中、道内の利用者が増加したと感じられた。
- 前年に引き続き、シャトルバスには好意的な意見がアンケート調査の結果から示された。ヒグマに関する意識調査結果からは、過去にくらべて船などからの観察をより好意的に、50m 前後の距離からの観察を否定的にとらえる回答が増加するという意識の変化が見られている。観光船の利用が伸びていることと、関係者によるキャンペーンなどの効果があらわれているのではないだろうか。

- 平年より3割から4割減の傾向。昨年同期比では1割から2割程度増。
- 外国人が激減し、道内利用者が増えた結果、連休に利用が集中する傾向が復活。
- キャンピングカーなども増加したが、地域の受け入れ体制が対応していない。
- コロナ禍で利用者は減少しているが、自然への意識、環境保全への意識をもって参加する人が増加傾向。
- カムイワッカ地区での新たな沢利用や岩尾別川及び幌別川河口付近のヒグマと人の関係に関しては、来訪者の意識改革はもとより行政(管理者)における自己責任の概念と制度上の取扱い(ルール)が未だに不明確なままになっているので事業者及び利用者の意識や行動を変えるには至っていないと感じる。
- 登山道、許可による利用エリア、許可を要しないエリアなど、知床半島全体を俯瞰した「ゾーニング」による魅力創出(維持)の取り組みも並行して進めなければ、その場のしがらみや手法に拘束された内容となり知床の魅力を失っていくのではないかと危惧する。
- コロナ禍で外国人観光客の入込が激減しているものの、アフターコロナ下では、以前にもまして外国人観光客が急増するものと考えられる。こうした中で、安全対策などの懸念があり、ガイドの絶対数が不足していく可能性があるのではないかと。外国人にも対応したガイダンスやガイド機能の強化が必要であるが単町では対応できていない、またこうした職業着業希望者への魅力化なども含め国策などが必要となる。
- 近年、ヒグマによる市街地への出没が増加傾向にあり、一定数、人を恐れない問題グマが発生しており、観光客との接触機会が増えることで、人馴れを助長させ、住民生活を脅かすことにつながるのか、一方で、人の流入が増えることで、ヒグマを深部に追いやることのできるのか専門家の見解が必要と考える。

③ツアーで使用しているフィールドや地域の自然環境について

気になることや心配なことがある	9 団体
気になることや心配なことはない	4 団体

- 岩尾別川でカメラマンとヒグマの接近が今年度も発生しており、クマの人慣れや事故の危険性が継続している。改正自然公園法が施行される来年度、注視したい。
- 世界的な地球温暖化の影響は、羅臼においても感じており、羅臼の前浜での魚種の変化など身近に感じているところである。山においても、植物の成長速度が速くなってきていると感じている。
- 羅臼岳、英嶺山の登山道、また羅臼湖の歩道の維持に係る草刈りにおいては、昨年コロナ禍にあり合同草刈りが中止となった影響を差し引いても生育の速さを感じる。
- 英嶺山の山頂では、ハンノキ類の生育が著しく、展望がさえぎられてきている。
- 地球温暖化の影響による知床の自然環境の変化については、長期的に見た場合、当然植生帯の移動や種の存続に影響を与えるものだと考えられる。地球温暖化の影響を図る長期的なモニタリングが必要ではないかと感じる。その中で、登山道の維持の在り方についても検討が必要になってくる時期がいずれ来る気がする。
- 当地域の事情やフィールドを理解しないままに参入する事業者や個人客の増加のせいか、無理な利用や野生動物との軋轢が生じた（ナイトツアーなど）。
- 観察対象のウミウやオオセグロカモメの営巣数が減少している。
- ゴミの不法投棄が増加。ゴミにヒグマが餌付く可能性があり、餌付かせない事前取り組みの推進が必要。
- 遊漁者のゴミ放置、迷惑駐車が増加。
- ヒグマとの人身事故リスクは常に課題である。これらは観光客や釣り利用者、カメラマンのみでなく地域住民のバーベキュー残渣や生ゴミの放置・投棄なども遠因となりうることから、全員で当事者意識を持ち続ける必要がある。
- 10月下旬以降に教育旅行等の団体が増加。シーズンの終盤のため利用エリアも限られ、五湖などは制度的にも対応に無理がある。
- 釣りの利用について、ゴミの処理や利用マナーについて課題が多い。実態把握が必要。
- 「秘境」に象徴される知床を継続するためにも「自己責任」の概念と制度上の位置づけを明確にした上で、五湖以奥は誰もが安全に行ける一般的な観光地との差別化を図っていく発想がカムイワッカ地区の魅力継続にとって必要ではないかと感じる。
- カムイワッカ地区での「大規模土木工事」が継続して行われているために知床の秘境感が失われていることを危惧する。また、これらの完了後も「工作物に守られた安全状態」が知床らしさとして世界的な評価を得られ続けるとは考えにくい。

- 知床の注目度が増すにつれて、特にガイドを伴わないトレッカーの事故増加の懸念がある。現在、観光船（ホエールウォッチング）やヒグマクルーズ参加事業者は協議会を形成し、同組織で承認されたルールに基づき、自然や野生生物へできる限り負荷をかけないよう事業を実施している。
- 外国人観光客が増えることで、外来種などの植生への影響。

#### ④その他（外国人の動向、エコツーリズムに対する意見等）

- 外国人旅行客は、今シーズンはほぼゼロに近い状況である。コロナが落ち着き以前の需要に戻ることを願っている。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、団体ツアーの募集、実施が難しく、今年度はツアー催行に至らなかった。
- コロナ禍に入ってから、外国人客はほぼいなくなった。日本在住の外国人の参加がまばらにある程度。今後、客足は徐々に回復するであろうが、客層の変化に伴うニーズの多様化と良質な自然体験の提供、地域経済への貢献など、多くの対立軸と向き合うことになるであろう。
- 昨年に引き続きコロナ禍により、外国人観光客の姿がほとんど見られなかった。
- バス等の団体旅行客が減少し、マイカーを利用した個人利用客が多くなった印象。
- 観光はリベラルアーツ的な側面を持つものであり、野生動物観光であっても歴史的構造物の観光であっても、比率は違えど人文科学的な面と自然科学的な面の両方を持つものと考えている。そのため「自然環境のみ」「文化歴史のみ」を対象とした観光方法では、知床半島の魅力は1/3も伝わらないだろう。
- 他の山岳地では、コロナ禍で登山者の行動が変わったことなどが報告されている。今後の登山者数のデータのとりまとめ、および利用時間の変化などについて分析が必要だと考えている。また、観光船の海鳥への影響について、長期モニタリングの評価で議論となっているが、因果関係を確かめるようなモニタリングは現在行われていないため、継続的に事業者からの環境の変化への気づきについての情報収集が重要だと考える。
- エコツーリズム戦略については、現行での実施体制で一定期間が経過しており、観光を取り巻く情勢も大きく変化しつつあることから、これらを踏まえた定期的な見直し時期と考えられる。公園法の改正等を踏まえた検討が望ましい。
- 検討会議の下の個別部会についても近年の事業展開を踏まえた整理統合が必要。
- コロナウイルスによって旅行形態も変わると思う。オンライントラベル等で自然解説、バーチャルツアーを実施しているが、如何に現地へ足を運んでもらうかが課題。

- 「集客」を優先するあまり、エコツーリズムの柱である「保全」や「持続」の意識が薄らいでいるのではないかと危惧する。